

あとがき（終刊のお知らせ）

当センターは平成18年4月に独立行政法人水産総合研究センターと統合することになり、それに伴いこれまで皆様にお届けしてきました技術情報（愛称：魚と卵）は、本号をもちまして終刊することになりました。長きにわたり多くの関係者の皆様にご愛読いただき深く感謝を申し上げます。

「魚と卵」は昭和25年に北海道水産孵化場から創刊されました。創刊号の巻頭言に、「最近の学術、技術を要約し、紹介・発表するとともに、併せてふ化場運営に必要な各種の重要事項の解明・連絡に当てるべく本誌を発刊・・・」と書かれているように、爾来55年の長きにわたって皆様に最新の技術情報を提供して参りました。

因みに創刊号の内容を垣間見ますと、サケの受精方法や不受精卵の見分け方、人工受精における切開法の利点等、非常に興味深い内容であり、特に、長年にわたって連載された「相談コーナー」では、現在のふ化放流技術の基礎的知識がギッシリと詰まっています。

また、昭和26年の水産資源保護法の制定に伴ない、北海道さけ・ますふ化場に改組するまでは、その愛称が示すとおりサケ・マス以外のワカサギ、ヤツメウナギ、金魚あるいはスケトウダラ、ニシン等の魚種に関する記事も多く見られ、また、各種解説や記録、紀行文等、多彩であり、現場職員からも積極的に投稿されていた様子が窺われます。

北海道さけ・ますふ化場は、ふ化放流事業に関する効率化や技術の省力化、また、消費者からのニーズに対応した高品質資源の造成方法等に対応するため、昭和63年に事業部門の機構改革を行い、それまで支所や事業所段階で行われてきたふ化放流技術の開発・改良を担当する技術開発課を本所に設置したことにより、従来にも増して技術開発に積極的に取り組み、多くの成果を得ることが出来るようになりました。

特に、人工ふ化放流事業のコスト低減（捕獲経費やふ化放流経費の低減等）、疾病対策等の技術開発によって得られた知識や結果は本誌に掲載し、広く関係の皆様にご公表するとともに、各地で開催する技術講習会等を通じ道県・民間増殖団体等に対して積極的に普及・指導を行ってきました。

技術開発は幾多の変遷を重ねて実に多くの実績を残してきましたが、これらの成果・結果は平成8年発行の本誌第165号に、総目録は平成9年発行の第166号に取り纏めましたので、機会があれば是非とも一度お目通し下さい。また、ホームページでも公表しています。

近年、国民の環境問題への関心の高まり等から、今後は、環境へ配慮した増殖事業の展開や、漁業者、消費者からのニーズの高いサクラマス等、高品質資源の増殖技術等に関する効果的な生産技術の開発を、また、人工ふ化放流事業を継続していくためには更なるコスト低減も求められ、これに係わる技術開発についても積極的に推進していくことが必要であると考えています。

水産総合研究センター（本部、横浜市）は我が国唯一の水産に関する総合研究機関です。

統合によりサケ・マスに関しては基礎的研究から応用・実証に至るまでの一連した研究開発がなされ、今後は、より高度な技術の開発と情報の提供が可能となると思われます。

この度の統合により、技術情報「魚と卵」は終刊となりますが、新たな方法によりサケ・マスに係わる様々な情報を今後も継続して提供していきたいと考えておりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

長い間、ご愛読いただきました関係者の皆様に対しまして衷心から御礼を申し上げ、編集委員会として終刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。

（さけ・ます資源管理センター技術情報編集委員会）